

不完全な堤防 20力所超

河川改修事業 すき間や高さ不足

全国の河川改修事業による堤防の整備状況を会計検査院が調べたところ、途切れていたり高さが不足していたりして堤防の役割を十分に果たせない恐れのある場所が、計二十数カ所あることが分かった。豪雨の際に水害が発生する危険性が高いとして、検査院は国土交通省に事態を早めに解消するよう指摘する。

検査院指摘

国土交通省と各自自治体が進める河川整備計画は、過去の豪雨時の水位や流域人口などを勘案して堤防の高さを定めている。検査院が指摘する二十数カ所の整備事業には約500億円が投じられている。

検査院が進行中の河川改修事業を調べたところ、関東や東北、九州、四国、北陸、

整備が進まない主な原因は、堤防が途切れているケースでは必要な用地の買収



土嚢で仮設された堤防。右側奥に雄物川が流れている。秋田県大仙市

京都大学防災研究所の中川一教授の話。堤防は早く完成させるのが理想だが、整備には時間がかかる。堤防にすき間があったり、十分な高さがなかったりするなら、持ち運びができる「モバイルレバー」という

仮設の堤防 増水時配置を

仮設の堤防を増水時に配置するなどして急場をしのぐための対策を進めるべきだ。用地の買収にあたっては、堤防をつなげることで多くの命や財産を守れることを地権者に伝え、協力を得ることが大事だろう。

ができないことで、高さが足りないケースは橋のかさ上げ工事に高額な費用がかかるためだった。

検査院は国土交通省に対し、関係者との協議を進めるよう

指摘するほか、自治体に早期完成を促すよう助言することを求める。

用地確保に遅れ 高い工事費

秋田県南部に位置する大仙市。河畔で行われる「大曲の花火」で知られる雄物川は、たびたび水害に見舞われる。今年7月の豪雨でも、堤防の敷力所で水が氾濫し、市内の住宅852棟で浸水などの被害が出た。

その雄物川の中流域に、造成が済んだ堤防に挟まれて約430戸にわたって土嚢を積み上げた仮設の堤防

が続く区間がある。完成済みの堤防より2〜3層ほど低く、幅が狭い。7月の豪雨ではこの場所からも川の水があふれ出た。

国土交通省荒川下流河川事務所によると、低い橋がかかっている堤防の高さが足りない場所では、橋の周囲に応急的にコンクリートの壁を設置し、水が堤防を越えないように対策を進めている。しかし、橋の上には壁をつくれないうえ、いざという時は土嚢を積んで浸水を防ぐしかないという。

その雄物川の中流域に、造成が済んだ堤防に挟まれて約430戸にわたって土嚢を積み上げた仮設の堤防

が続き、この企業が移転したあとで、堤防を完成させることになっていった。しかし、企業の移転先が見つからなかったため、国は造成に着

手できなかった。企業は来春にも移転するめどが立つたが、堤防の完成には移転からさらに1〜2年かかりそうだという。

人口が集中する首都圏でも、同様に不完全な堤防が見つかった。埼玉県から東京都内を流れる荒川。川にかかる橋によって計画通りの堤防の高さが確保できていない場所

(小林太一、末崎毅)